

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202606		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと中金杉		
所在地	千葉県松戸市中金杉2-72		
自己評価作成日	平成24年1月13日	評価結果市町村受理日	平成24年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成24年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所が特に力を入れている点は3つあります。一つ目は、リビングルームを入居者の方々の社交の場・娯楽の場・食事を楽しむ場として最大限活用することです。認知症対応型共同生活介護の核心は、みんなと一緒に過ごす時間を大切にすることにあると考えています。二つ目は、職員の教育です。グループホームの職員には、身体介護や生活援助の技術以外のノウハウが求められます。職員は絶えず研鑽を繰り返しています。三つ目は、施設の清掃です。どこに触れても手が汚れず、いやな臭いのしない施設を実現します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームを経営する法人は、他に有料老人ホームなど多くの事業を行っており、隣にも同じグループの2つの施設がある。地域との連携を重視するホーム長が、時間をかけて地域との良い関係を作り上げてきた。自治会の協力を得てセミナーを開催し、資源の提供をしたり、自治会の役の担当や行事には必ず参加するなど、地域密着と交流をとっても大切にしている。実行力のあるホーム長の下、理念に沿って全職員が明るく元気で楽しいホームづくりに取り組む姿は利用者に伝わり、リビングはいつもいっぱいである。又、清掃には人一倍気を配っており、ホームの隅々までいつもクリーンである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の掲げる理念のひとつに「地域に開かれた施設であり続けること」があり、職員全員がその理念を理解し、地域の方々と協力関係を大切にしている。	[主体性の尊重と安全の確保]他5つの法人理念のもと、[お年寄りの個人の尊厳の保持]など6つのめいと中金杉のホーム理念を掲げている。新人研修、OJT、ミーティングの機会に指導をし、職員全員の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の代表者が地域自治会の役員として活動し、お祭りや清掃等地域の行事に参加。また、地域自治会の防災訓練にも参加し地域と一体になった防災活動を目指している。	ホーム長が5年の歳月をかけて地域との関係づくりを構築した。現在、地域に3つの施設を持つめいとグループが自治会の1つの「組」として認知され、その組長を務めている。地域行事、消防訓練などには、積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会に呼び掛けて、弁護士による「成年後見制度」の勉強会を開催するとともに、認知症に対する支援のノウハウの紹介などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヵ月に1回開かれる運営推進会議では施設の状況を報告し活発な話し合いが行われている。なお、毎回テーマを設け、構成員がそれぞれの立場から意見を出し合い、有益な議論が行われる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議には必ずテーマを設け、有意義な議論が出来るよう工夫している。市関係者、地域の自治会長、副会長等は毎回参加がある。会議で出た意見は速やかにサービスに活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや困ったことが生じた場合には、躊躇することなく市の担当者に電話により相談し解決している。	市の担当者とは都度連絡を取り合っている。また、隔月に開催されるグループホーム協議会には毎回出席し、出席する市職員と意見交換をしている。市との良好な関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的項目については学習済み。徘徊防止には見守りで対応することを原則とし、玄関施錠は見守りの網が破られた場合の最後の安全弁として機能するようにしている。	法人の理念、施設の理念に基づき身体拘束は一切していない。ホーム長はグループセミナーでの講師として「身体拘束をしないケアの実践」をテーマに取り上げる等、特に深い思い入れがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する講習会に職員が順次参加できるように配慮しており、すでに受講済みの職員は、虐待防止に向けて積極的に活動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は弁護士による成年後見制度を研修済みであり、個々のケースについての話し合いの中で職員にも具体的に理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約締結にあたっては、契約書・重要事項説明書をもとに、納得されるまで十分に説明している。解約の条件についても明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族との連絡はきめ細かく行っており、その意見・要望は絶えず運営に反映されている。市派遣の介護相談員が月1度事業所を訪れ、各利用者と対話しており、これが外部者への表明の場となっている。	面会時や電話等で家族とはきめ細かいコミュニケーションを図っている。また、年に4回発行する[めいと通信]を送り理解を深めている。市の介護相談員が月1度事業所を訪れ、各利用者と対話しており、これが外部者への表明の場となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・施設長は職員との対話を重視し、悩みごとの相談や意見表明の場を確保している。相談に対しては、必ず、納得のいく答えを出すようにしている。よい提案については、運営に反映させている。	3ヶ月に1度の全体ミーティングには全員参加とし、日々の気づきは連絡帳の活用で漏れの無いよう、確認をしあっている。管理者・施設長は常日頃から、職員との対話を重視し、意見交換をし悩み事や相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状態などは、職員の給与決定に関する参考資料として代表者に提出されており、昇給・賞与などの決定において職員の普段の勤務態度が反映されるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる研修の参加について積極的に奨励しており、一定の条件のもとに費用の助成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・認知症研修会に管理者が出席し、同業者と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、基本的に、体験入居を実施し、その中から本人の生の声を聞き提供するサービスを決定している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に先立ち、ご家族から本人のこれまでの生活状況の説明を受けるとともに、施設で対応できることとできないこととを分けて説明し、その後の円滑な関係づくりに努めている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居により、入居時に本人がまず必要としている支援を把握し、ご家族とさらに話し合ったうえで必要な支援を見極めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、各入居者がその残存能力に応じた役割を果たせるように、絶妙のタイミングで声掛けをし、入居者と職員との共同生活関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡を密にし、本人の変化に対しては、家族と連絡をとりつつ、ともに本人を支えるという関係であることを失わないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙やはがきの投函などを支援し、親戚や友人の訪問に対しては出来る限りの便宜を図るようにしている。	これまでの馴染みの関係を大切にし、手紙等の投函を支援している。職員は利用者家族や知人の訪問を歓迎し、訪問時にはコミュニケーションを大切にしている。継続的な交流が出来るよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の食堂テーブルの配置や着席位置に工夫をし、必要に応じて職員が会話の中に入り、利用者が孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者に対し、その後の様子などを電話で伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いや意向を把握するよう努力している。連絡帳や職員の記入した業務日誌の中に書き留めて、個別の内容について引継ぎをし、情報を共有している。	利用者の思いや意向は日々のかかわりの中で把握している。職員はどのように声掛けするか、どのように接するかを工夫している。職員間の連絡帳や業務日誌には共有すべき情報や気付きが記入され、思いを同じにしてケアに臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査において、本人のこれまでの生活状況は重要な要素と捉えてその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼間は、リビングルームで過ごす人が多く、各入居者の1日の過ごし方、心身の状態は絶えず把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望をかなえるのに家族の協力が必要な場合には、家族に来てもらい、本人を交えていろいろな案を検討するようにしている。	利用者毎の居室担当者を決め、日頃のかかわりの中から本人の希望を聞いて介護計画を作成している。職員全員が参加するミーティングの他、気付いた時にはミニミーティングを開き話し合っている。モニタリングもこまめに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には各職員が気付いた事を自由に書き込んでもらい、職員間での情報共有に活かされている。さらに管理者による実践や介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化といえるかどうかは別として、その時々に応じた臨機応変な対応を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書ボランティア・詩吟の会・音楽会の定期的訪問により、心身の力を発揮しながら暮らしを楽しむように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への個々の利用者の受診については、平素の健康管理に基づく緊急時対応の利点も含めて説明し理解していただいている。	協力クリニックの月2回の往診の他、法人の看護師には常時、連絡が可能で相談もできる。協力医療機関には送迎車もあり利用している。家族とも情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に関しては、最新の注意を払い、介護職→管理者→看護師と連絡され、看護師の指示を受ける体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内のソーシャルワーカーと必要に応じて連絡を取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において、終身施設ではないことを理解してもらい、重度化や終末期に至った場合には、できる限り当施設で介護サービスを続けるものの、それが限界に達した場合には当社他施設の利用が可能である旨を説明している。	ホーム長の熱い思いで重度化や終末期に至った場合にもできる限りホームで支援を続けるが、家族や医療関係者と状態を見極め、他の利用者への影響も踏まえて取り組んでいる。法人の他の施設や医療機関への紹介も本人・家族と話し合いながら行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練はしていないものの、緊急時対応のマニュアルはできており利用者の急変の場合には順調に機能している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、避難方法についていろいろな場面に対応した方法を検討している。地域自治会との協力関係を築いている。	避難訓練は定期的に行い、町内防災訓練にも参加し地域との協力体制も築いている。まずホームから火事は出さないよう細心の注意を払っており、職員に喫煙者はいない。昨年の震災時にも耐震対策が功を奏し被害は無かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に話かける場合には、敬語を使うことを原則とし、また、利用者を「～ちゃん」と呼ぶことは厳禁している。	利用者は人生の先輩であるという思いを共有し、人格を尊重した言葉掛けやケアを行うよう心掛けている。個人情報の管理はルールに従い、職員間で徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに耳を傾け、その希望を理解して介護にあたることの重要性を職員たちは理解しており、これを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは最大定員9名と少人数であり、相当程度まで、本人の希望に応える支援が可能となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に鏡を見てもらう回数を多くすることで身だしなみに関する意識を持ち続けられるよう支援している。訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒にとり、食事の配膳・下膳・食器洗い・収納なども利用者と職員と一緒にやっている。	食事は同法人の厨房から配膳され、味は大好評を得ている。職員も同じテーブルを囲み楽しく食事しておりBGMも心地よい。利用者と一緒に盛り付けから片付けまで行き、おやつも手作りされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は栄養士の献立を基にして調理されカロリーバランスのとれたものとなっている。食事の量は各自の状態にあわせて提供している。水分補給には細心の注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行。独りで歯磨きのできない利用者に対しては、歯磨き介助を行う。義歯は洗浄剤を用いて洗浄している。必要に応じて、専門家による口腔ケアを受けることができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄サイクルおよび排泄サインを把握し、適切にトイレに誘導することで尿失禁やおむつの使用をなくすようにしている。	各居室にはトイレが設置されており、排泄の自立に向けて配慮されている。昼夜とも利用者の身体状況に応じた排泄支援を行い、誘導の声掛けはさりげなくを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で確認をしながら、水分補給・ヨーグルト・牛乳など個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的には週2～3回のペース。本人の身体の状況を見て変更することもあり。入浴の順序の希望に応ずることはできるものの、入りたいときに入るとい希望には沿えていない。	毎日2～3名のペースで、昼食の休養後の時間にゆっくり入浴している。浴室は広々とし清潔にも配慮されている。入浴を拒むかたには言葉かけや対応の仕方を工夫し一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が横になりたいときには、いつでも自分の居室に戻って横になれるよう職員に指示している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が服薬の業務を担当することになっており、各利用者の服用している薬について十分に理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽器を演奏できる人、絵を描くのが好きな人、歌を歌うのが好きな人などに応じて、カラオケを設置したりして応援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダで過ごしたり、近くを散歩したりしている。施設から離れた場所については家族に協力をお願いしている。	ホームは住宅街にあるが、近くには神社や名所もあり天気の良い日には散歩に出掛けている。四季折々にふれ家族と出掛けたり、歩行に不安のある利用者は職員と車でドライブにも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解している方に対しては、職員は干渉せず本人に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡に関しては、本人の依頼を受けて職員が連絡をとってさしあげるようにしている。そのうえで本人が電話口に出ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口横のミニ花壇や庭に張り出したウッドデッキなどに季節の草花を配置し季節感を演出している。リビングルームは、直射日光が入らないようレースで遮断し、BGMを流すようにしている。	共有部分は明るく、掃除が徹底されており清潔感が溢れている。日当たりの良いリビングは採光にも配慮され居心地の良い場所になっている。ウッドデッキから続く庭には畑もあり、夏には野菜の収穫も楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームには、ダイニングテーブルのほか、ソファを設置し少人数で一緒に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり本人の使い慣れた家具等をお持ち頂くようお願いしている。居室には思い出の写真、趣味の絵を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室の押入れには衣類の他、仏壇を収めている利用者もいる。馴染の家具や思い出の品々と写真等が飾られている。本人・家族が話し合って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、廊下・トイレ・浴室などに手すりが設置されている。		